

- 2040年を展望すると、高齢者の人口の伸びは落ち着き、現役世代(担い手)が急減する。  
→ 「総就業者数の増加」とともに、「より少ない人手でも回る医療・福祉の現場を実現」することが必要。
- 今後、国民誰もが、より長く、元気に活躍できるよう、以下の取組を進める。  
①多様な就労・社会参加の環境整備、②健康寿命の延伸、③医療・福祉サービスの改革による生産性の向上  
④給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保
- また、社会保障の枠内で考えるだけでなく、農業、金融、住宅、健康な食事、創薬にもウイングを拡げ、関連する政策領域との連携の中で新たな展開を図っていく。

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指す。

≪現役世代の人口の急減という新たな局面に対応した政策課題≫

## 多様な就労・社会参加

### 【雇用・年金制度改革等】

- 70歳までの就業機会の確保
- 就職氷河期世代の方々の活躍の場を更に広げるための支援  
(厚生労働省就職氷河期世代活躍支援プラン)
- 中途採用の拡大、副業・兼業の促進
- 地域共生・地域の支え合い
- 人生100年時代に向けた年金制度改革

## 健康寿命の延伸

### 【健康寿命延伸プラン】

⇒2040年までに、健康寿命を男女ともに3年以上延伸し、**75歳以上**に

- ①健康無関心層へのアプローチの強化、  
②地域・保険者間の格差の解消により、以下の3分野を中心に、取組を推進  
・次世代を含めたすべての人の健やかな生活習慣形成等  
・疾病予防・重症化予防  
・介護予防・フレイル対策、認知症予防

## 医療・福祉サービス改革

### 【医療・福祉サービス改革プラン】

⇒2040年時点で、単位時間当たりのサービス提供を**5% (医師は7%) 以上改善**

- 以下の4つのアプローチにより、取組を推進  
・ロボット・AI・ICT等の実用化推進、  
データヘルス改革  
・タスクシフティングを担う人材の育成、  
シニア人材の活用推進  
・組織マネジメント改革  
・経営の大規模化・協働化

≪引き続き取り組む政策課題≫

給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保